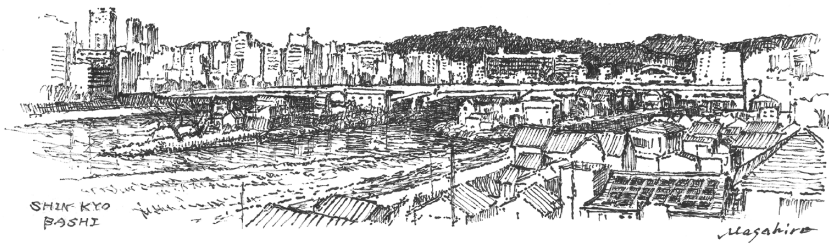


# ガネーシヤの教え

津山教育事務所長

金 田 司



高校生の息子がめずらしく本を読んでいた。題名は「夢をかなえるゾウ」だ。高一の時に一度読んでいたが、高三の今、もう一度読み直してみると、改めて考えることが多いと思う。自分の進路を真に見つめ、自分なりの結論を出そうとしているのだと思うと、親としては応援したくなる。息子に借りて遅まきながら私も読んでみた。

二〇一一年発行（東日本大震災の年）のベストセラーなので、読まれた方も多いと思うが、この本はごく平凡なサラリーマンが神様を名乗る謎の生物・ガネーシヤの指南によって自らの人生を変えていく物語だ。

主人公の夢を成すために、ガネーシヤは課題を示し、その行為の意味や価値を伝えていく。例えば、『トイレ掃除をする』。一番汚いところを掃除するつちゆうことや、人がやりたがらんことやるからこそ、それが一番喜ばれるんや。一番人に頼みたいことやから、そこに価値が生まれるんや』などと関西弁で述べられる。

ガネーシヤは「自分の教えなど過去の成功書に書いてある。それでも、世の中にはいまだ成功法則書が溢れている。つまり、そういう本を読んだ人たちのほとんどが成功していくことはない。それはなぜか。何もしないから、実行に移さないから、経験に向かわないからだ」と指摘する。耳の痛い指摘だ。なかでも、次の言葉は重みがある。

「ガネーシヤの教えにはあなたを変えるだけの力がない。なぜなら、あなたが変わるにはあなたの決断とあなたの行動が必要だから。」意志をもつて自ら行動を起こしていく力が求められているということであろうか。

では、学校現場はどうか。学校訪問してみると、落ち着いた学習環境の整備、学力の向上に向けて具体的な改善の動きが広がっている。課題解決に向けて取組を重点化し、徹底すべきことを徹底しようと、教職員は粘り強く前向きに取り組んでいる。しかし、目に見える成果が出ていないところばかりではない。まだまだ道半ばだ。より高みを目指して私たちは努力し続けなければならない。

働き方はどうか。「何かをやめてみる」。時間が増えれば入った器から何かを外に出すんや。そしたら空いた場所に新しい何かが入ってくる。…会社が終わったあとの自由な時間ちゆうのは、自分がこれから成功していくために自由に使える一番大切な時間なんや。今こそガネーシヤの教えを実行する時だ。学校現場も何かをやめて、自由に使える時間を生み出し、自己啓発等にあててみよう。

「本気で変わると思うたら、意識を変えようとしたらあかん。意識やのうて『具体的な何か』を変えなあかん。」

何とかしなくてはという意識は既に高まっている。変わる学校、変わらない学校。何を変わるのか。私たち自身が問われている。